

# 「アスンシオン日本人学校での オンライン授業の取り組み」

パラグアイ アスンシオン日本人学校 校長 加藤雅亮

# 目次

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 実際の取り組み
- ④ 日本の公立学校でオンライン授業を行っていく際の課題等
- ⑤ 最後に
- ⑥ 参考資料と写真

# ①学校の規模や子どもたちの実態

- 本校は、新年度を11名の児童生徒で迎えた。
- 派遣教員は6名。
- 2020年度の年度初めにあって、職員の異動はなく、児童生徒も一時帰国や転出入がなかったことが幸いし、4月当初から予定通り、オンライン授業をスタートさせることができた。

## ② 現地の新型コロナウイルス事情

- 3月10日(火)にパラグアイ政府が「15日間の全学校臨時休校」および「サッカー・コンサート等、多人数が集まるイベントの中止」を発表。  
(まだ、感染者が2名の段階での突然の発表)
- 3月20日(金)には、学校休校が4月12日まで延長(その後、5月23日時点でも継続中)、合わせて、3月28日まで8日間は不要不急の外出禁止(※スーパー・薬局・ガソリンスタンドでの購入はOK)を発表、工場は操業停止、多くの店は休店へ。  
違反者には罰則がある実質的な「ロックダウン」開始(その後、5月23日時点でも継続中)。
- 3月23日(月)には、アスンシオン空港が閉鎖され、日本や他国への避難路が完全に閉ざされて現在に至っている。
- 当初、24時間外出制限中でも生活必需品の買い物には行けていたが、4月10日(金)には、車のナンバープレートの末尾によって制限されることに。  
奇数が月水金日、偶数が火木土。奇数が1日得だが、曜日の入れ替えはない。

- 5月4日(月)から3週間ずつ、フェーズ1～3に進めていき、従事できる仕事や開店できる店を増やしていく。
- しかし、学校は最後となる見込み。4月27日には「年内は学校は対面の授業は行わない（オンライン授業のみ）」との発表。1月まで学校で授業が行えない可能性あり。
- 5月23日現在のパラグアイのCOVID-19感染者数は838人、死者は11人（人口100万人当たりの感染者数は119人、死者は1.6人）。  
これは、感染者数では日本と同等、死者数は日本よりも少ないということになる。
- 隣国ブラジルの感染者が急激に増えている中、パラグアイはよくこの程度でとどめられていると思うが、スーパーマーケットに入るのにも「手洗い」「検温」「マスク着用」「一家庭一人のみ」「人数による入場制限」など、たいへんしっかりと対策を実行している。
- 現在のところ、日本の外務省による南米安全情報では、他のほとんどの国がレベル3（渡航中止勧告）の中、パラグアイはレベル2（不要不急の渡航は控える）という状況（ただし、飛行機はすべて運休中）。

### ③ 実際の取り組み

- 私は、本校が休校になってすぐ、これが長期化した場合の子どもたちの学びの保障が心配事として頭に浮かんだ。パラグアイのネット環境でオンライン授業ができるのかは不安だった。準備を進めるに当たって、意識したのは次の3点。
  - 1) ビデオ授業などの一方向だけの授業ではなく、双方向の授業を行う。
  - 2) 子どもたちの生活のリズムをできるだけ学校に通っている時のリズムに近づける。
  - 3) メンタルヘルスのケアにも配慮し、子どもの表出場面を増やした授業を行う。
- 本校は、世界90校以上ある日本人学校の中で、本年度最も早くオンライン授業をスタートできたのではないかと思う。それは、「3月から計画的に準備を進めたこと」および「この年度末、派遣教員の入れ替えがなかったこと」による。新しく派遣される教員が4月7日に日本を発つ予定であった学校では、そこから数日後の入学式・始業式の日程を組んでいる。本校は、派遣教員が来ない年度をなくしたいと思っていたが、本年度は派遣教員の入れ替えがなかったことが幸いした。
- 以下に、オンライン授業実施に関しての3月～5月の経過を記す。

- 3月11日(水) <職員連絡>

- この日から臨時休校がスタート。集まった職員に指示を出す中で「情報担当者の2名は、今後、休校が長期化したときのために、本校で行えるオンライン授業の可能性について探ること」と伝える。その際に、「Zoomは本校で使えるか検討を」と指示。

- 3月24日(火) <職員・家庭連絡>

- 情報担当者から「Zoomでいけそうだ」との回答を得る。
- 「授業のオンライン化を念頭に置いたZoomの使い方」(作成:東京大学)を職員にメールで配付。
- 各家庭に「パソコン・タブレット環境調査」をメールで実施(28日締切)。
  - ⇒ プリンターはない家庭が多い、兄弟で1台しか使えるPCがない家庭があること等を把握。

- 3月28日(土)・29日(日) <職員自主研修>

- 日本の某グループ主催のZoomを使った授業紹介の講座が開かれる情報を得て、職員に紹介。職員は自主的にその講座にパラグアイからZoomで参加。
  - ⇒ Zoomで授業を進めるイメージやZoomでやれることは何かを体感することができた。

- 3月31日(火) <職員研修>

- 外出制限の中であつたが、授業をスタートさせるためにどうしても必要であると判断し、非常勤職員も含めて全職員が学校に集合しZoomの研修を実施。
  - ⇒ この日までに各自で自主研修してきたことの疑問点などを出し合って解決。

- 4月1日(水) <各家庭との接続テスト>

- 情報担当者のパソコンのZoomミーティンググループに子どもたちが入れるかを確認。
- その後、全教員のミーティンググループに、メールで知らせたIDを入力しながら子どもたちが順番に入室（スタンプラリーのような感じで）。
  - ⇒ 今後授業で入室する際、毎回IDの数字を入力しなくても履歴の選択で入れるようになる。
- この日から毎日、朝8:00と夕方16:50に職員打ち合わせをZoomで行う。

- 4月3日(金) <中学3年生でオンラインの試行授業>

- 中3の社会科と数学科で試行授業を実施。
  - ⇒ パワーポイントに貼った画像や音楽、映像も生徒がきちんと見られること等を確認。

- 4月6日(月) <担任発表と担任とのあいさつ>

- 年間計画では始業式を予定していた日。Zoomで校長があいさつをし、その後担任を発表。
- 児童生徒は指定時刻に担任のミーティンググループに入り、保護者とともにあいさつ。
- その後担任が家庭訪問して教科書を配付の予定だったが、外出制限が厳しくなってきたため、校長と教務主任が二手に分かれて教科書を家庭に届ける。同梱の学校だよりに、各学年各教科の担当者名を記載。

- 4月7日(火) <オンライン授業スタート>

- 1日を8時間目までの枠をつくり、「1・3・5・7時間目」に授業を行う学年と「2・4・6・8時間目」に授業を行う学年に分けるのを基本とする。
- 授業は小学部45分、中学部50分。Zoomは無料で使っている。  
⇒ 40分で切れてしまうため、授業の途中で一度入り直すことで規定の授業時間を実施。
- 1時間おきの授業にしたのは、兄弟で同時に授業が受けられない家庭がある関係と、画面を見つめる目の負担を軽減するため。
- Zoomのセキュリティの脆弱性が話題になっていたが、まずは待機室機能を使って第三者が入ってこられないようにする。また、時間割は毎週異なるものをメールで配付。

- 4月13日(月) <オンライン授業2週目>

- 中学3年生を毎日4コマから週3日5コマに増やす。
- 子どもたちも使い慣れてきたので、セキュリティ強化のため、待機室機能に加えてパスワードも求めるようにする。

- 4月14日(火) <「卒業式」「入学式・始業式」をオンラインで実施>
  - 延期になっていた卒業式をZoomで実施。
  - これに先立ち、4月11日(土)に小6担任と校長が卒業生家庭を正装して訪問し、マンションの前の屋外にて卒業証書を渡した。
  - Zoomによる式では、校長が証書を授与するフリをするタイミングに合わせ、保護者がパソコン越しに本物の証書を卒業生に“授与”した。  
⇒ 見ている子たちは後で「本当に証書を渡しているように見えた」とのこと。
  - 運営委員長も参加して祝辞をくださったり、子どもたちの呼びかけや、卒業生一人一人の感謝の言葉もあったりしたため、「意外と良い卒業式だった」と保護者も感想を後で話してくれた。
  - 合唱については、伴奏を流しても家庭によって音がずれることが音楽の授業の中で分かっていたため、「伴奏はなくし、一人一人がリレー形式のソロで歌う」形で実施。  
⇒ なかなかスムーズに行え、一人一人の思いも感じられ、良い形であった。

- 4月20日(月) <オンライン授業3週目>

- 週2回の全校体育のラスト10分にフリートークの時間を設け、子どもたちのメンタルヘルスに配慮。
- この週より、教科によっては、Google Classroomも使っていく。
- 以後、3週目・4週目で学年によって授業時間を増やす。

- 5月28日(木)・29日(金) <オンラインでの中間テスト実施予定>

- テストは当日の朝に家庭に配付。
- Zoomを使い、監督者の指示でのり付けされた封筒をはさみで開け、テストを実施。
- 終了後は、配付してあった解答用紙用の封筒にすぐに入れて両面テープで留める。
- その日のテスト終了後に職員が家庭へ回収に回る。

- 「技術家庭科」「道徳」「総合的な学習の時間」を未実施。

- そのほかの各教科は、オンライン授業ですべて行っている。

- 今後は、未実施の教科も取り入れたいが、文科省が本年度のカリキュラムの削減をするのかどうか、様子を見ている。まずは、技能系以外の教科の授業を進めることを優先。

- 子どもたちの声

- いつも少人数の授業なので、学校とあまり変わらない感じがする。でも、先生たちは準備がたいへんそう。
- けっこういい！
- パワーポイントの資料は見やすい。
- みんなに授業で会えるので、あまり会っていない気がしない。

- 教師の声

- この人数の規模なので、日本の学校よりは困難さが少ない。
- 子どもたちの学びが確実に進んでいることがうれしい。
- 接続の不具合などが起きることは当たり前なので、あまり細かいことを気にしないようにして、つながっていることに喜びを感じながら授業をしている。
- おうちの人が家の中で静かに過ごすように協力してくれていることを感じる。
- 準備に時間がかかるし、学校の授業よりもからだの疲労と目の疲労を感じる。
- 1学期の間までなら、なんとか頑張ろうと思うが、これがもっと長期になると不安。

## ④ 日本の公立学校でオンライン授業を行っていく際の課題等（個人的に思いついたこと）

- 各家庭に子どもが使用しても良いパソコンやタブレットがあるか。
  - スマホでことが足りるので、ない家庭も少なくない。
  - スマホでも授業参加は可能だが、学習には画面が小さすぎるのと、保護者のデータ利用料が高額になる心配がある。
- 児童生徒に一人1台のタブレットを配付する動きがあり、これは素晴らしいことだが、ルーターとその通信料はどうなるか。
- 各家庭に、学習に集中できる部屋が用意できるか。
  - 家族の話し声などは、ミュート機能で入らないようできる。
- 授業を行う環境が整ったとしても40人学級はなかなか厳しい。
  - 参加者は20人～25名ほどだと良い。（40人でも授業は可能だが、ビデオ授業的な一方向の授業にならないように留意したい）

- たくさんの人数の教員が学校から同時にオンライン授業を行った場合、通信速度が下がらないか。（画面がフリーズしないか）
- Zoomの脆弱性（日本の外務省は大使館に使用を禁じている）は改善されつつあり、良くなかったことを素直に公表した企業の姿勢にも好感が持てる。
  - パラグアイの現地校では、他のアプリとしてGoogle MeetやCiscoWebexなどが使われている。
- 通常の授業よりも準備に時間がかかりやすい。
  - 私の授業では、歴史の明治文化の学習で滝廉太郎の音楽をパワーポイントに貼り付けたり、日本の国際連盟脱退シーンの動画を流したりして紹介するなどした。
  - こうした情報を提示しやすいのがオンライン授業の強み（教室より見やすい）。
  - 一方、私は一つの授業にスライドを20枚ほど作っているが、準備に2～3時間かかってしまっている。
  - 授業準備に時間がかかることが常態化すると、職員も疲労がたまってきそう。授業準備と授業中のすべての時間をパソコンに向かうため、目の疲労も大きい。

## ⑤ 最後に

- このパラグアイのネット環境で、どこまでのことがやれるか不安だったが、ここまでは予想以上に着実に授業が進められている。  
校長としては、とてもホッとしているし、嬉しく思う。
- 今日に至るまで、子どもたちは一人も1時間も授業を欠席していない（通信事情が悪くて自習になったことはあるが）。  
子どもたちの前向きな姿勢は本当に素晴らしく、それに私たち教員も元気をもらい頑張っている。
- また、非常勤も含めた本校教員の、子どもたちのために精一杯のことをしようとする姿勢に、深く感謝している。

- しかし、五感のうち、視覚と聴覚はオンライン授業で共有できるが、触覚・味覚・嗅覚はできない。  
五感をすべて使い、共有してこそ、子どもたちは互いに学び合え、実感として得られるものがある。
- やはり、オンライン授業は対面授業に勝ることはない。  
緊急避難的措置の手段で取り組んでいるが、この状況が早く終息することを願ってやまない。

# ⑥ 参考資料と写真

オンライン授業の時間割

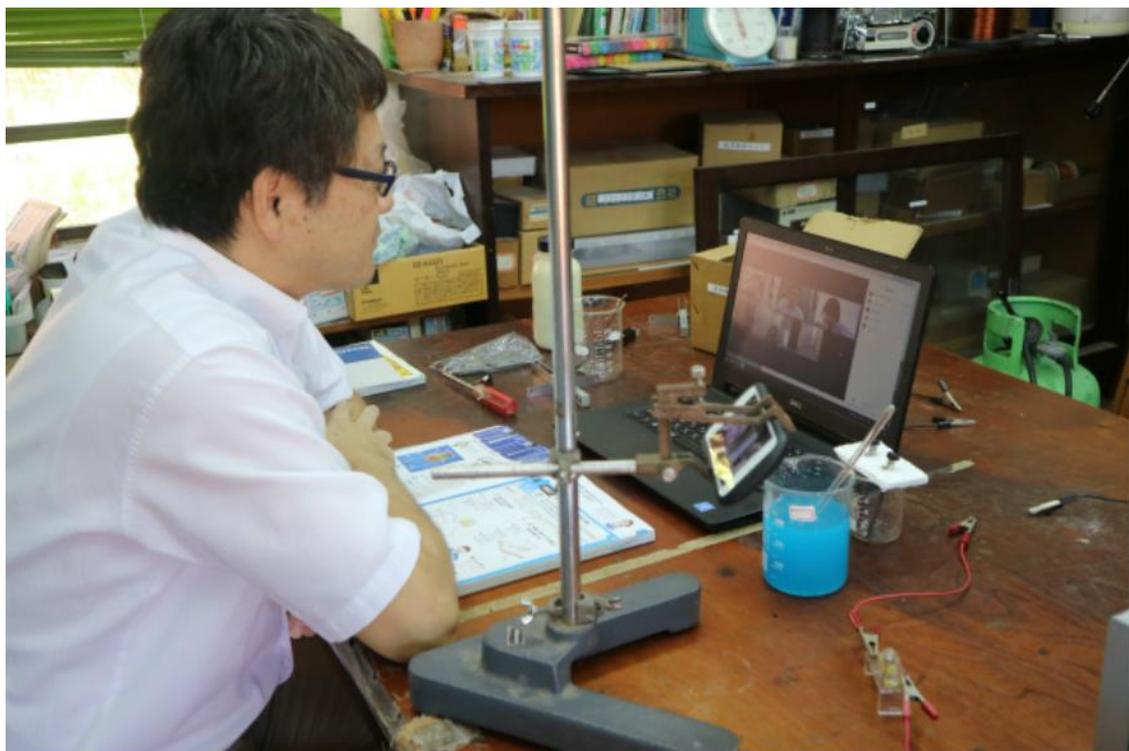
5月5日(火)

		小2	小4	小6	中1	中2	中3
1	8:30 ~		算数	理科			数学
2	9:30 ~	国語			数学	国語	
3	10:30 ~		社会	算数			英語
4	11:30 ~	生活			理科	数学	
5	13:00 ~		国語	社会			国語
6	14:00 ~	算数			英語	理科	
7	15:00 ~	全校体育					
8	16:00 ~						社会

ある日の時間割の例。担当教員によって色が変わっている。  
小1・3・5年生は在籍なし。



Zoomによる卒業式（4月14日実施。卒業式に続いて、入学式・始業式も実施。  
一部、画像処理あり）



実験は理科室から行う場合も。スマホで実験を写して画面に示している。



職員は、基本は自宅から授業を行うが、黒板が必要な授業では、このように実施している。